研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進型
スタートアップ・エコシステム形成支援
R4年度補正予算(EDGE-PRIME Initiative)
実施報告書

「Greater Tokyo Innovation Ecosystem(GTIE)」

活動期間:2023年5月8日～2024年3月31日

I. 活動の概要

GTIEプラットフォームは本事業において、高校生等へのアントレプレナーシップ教育への拡大やそれに資する取組みを既に行っている大学のアントレプレナーシップ教育ノウハウを集約・共有し、

- ・ 高校生等に対するアントレプレナーシップ教育プログラムの開発・提供
- ・ 体系化されたアントレプレナーシップ教育のノウハウ伝承を目指す指導方法や教材化と普及・伝播

を実現するための基盤事業を展開した。

現在のGTIE各機関の役割分担と人的リソース、組織的・プロジェクト的な高大接続推進の状況等を踏まえ、既に存在するプログラムをより面的活動に拡充させていくことや新たな先駆的な取り組みを進めることについて、主幹を早稲田大学とし、共同4機関の計5機関において本事業による資金を活用し精力的に活動し、それ以外の主幹・共同機関GTIE全体で、アントレプレナーシップの地域実態の可視化や隘路解消に効果的と考えられる施策・アプローチを進めた。

II. 活動内容と成果

1. スタートアップ・エコシステム形成支援(当初予算)で目指すプラットフォームの姿への本取組による貢献

GTIE (Greater Tokyo Innovation Ecosystem) は、スタートアップ・エコシステム形成支援事業(2021-2025)の支援を受け、ビジョン「世界を変える大学発スタートアップを育てる」の元に、世界で活躍するボーングローバルなスタートアップ企業、社会や環境の課題を解決する視野の広いスタートアップ企業等の創出を目指している。

特にアントレプレナーシップ教育プログラムの観点では、起業・事業創出意欲、課題設定・検証力、リーダーシップ等多岐にわたる「アントレプレナー」の素養を涵養するために、大学入学間もない段階の学生から研究者まで多様なステージ・対象者に対し効果的・体系的なプログラムが提供されている状態を目指すこととしている。

この目指す姿に向け、本事業では、裾野の拡大と様々な観点での実践的プログラムの実施という観点から、高校以下を対象とした新たなステージでの人材養成プログラム開発に取り組む。

2. 高校生等へ提供するアントレプレナーシップ教育プログラムの開発・運営

高校生等に対し、「=起業」ではなく、次代を担うイノベーション人材にあまねく求められるアントレプレナーシップの醸成と新たなキャリアに関する意識の醸成をねらったプログラムを展開した。高校/高校生側の負担を考慮し、原則として正課外プログラム(課外活動)の位置付けで実施するが、探究学習など高校における新たな教育や取組みと連動して今後広く展開されるよう、高校改革・教育改革等の促進をも企図したレガシーを創出することも目的とした。

<早稲田大学実施プログラム>

文科省EDGE, EDGE-NEXT事業で培ってきた国際標準のアントレプレナーシッププログラムや、2022年度より三菱みらい育成財団事業で展開している高校生～学部1,2年生向けプログラムのノウハウを活用したプログラムを実施。

- ・ 高校生シリコンバレー派遣プログラム(サンフランシスコ、パロアルトの現地高校への派遣やスタンフォード大学視察プログラム等を通じて、イノベーションを創出する世界の最先端教育とダイバーシティを学んだ)
- ・ 都立国立高校におけるアントレプレナーシップ醸成プログラム(東京都が選定したモデル高校において、宮坂副知事による講演、高校生とGTIE3主幹機関(東大、東工大、早稲田大学)のプログラム代表者、代表補佐らによるディスカッションを実施)
- ・ FDプログラム:アントレ教育の高校教員向け研修(アントレプレナーシップ教育について最先端のメソッド・考え方(エフェクチュエーション、デザイン思考)に基づく実践的な取り組みを紹介し、自校での展開可能性に研修する機会を提供した)

<筑波大学実施プログラム>

茨城県、つくば市と連携して、社会課題の解決方法を探索するワークショップを通じたアントレプレナーシップ

教育を実施。

- ・ 茨城県内の高校生と大学生がグループを組んでWell-beingをテーマに企業が提示する課題を解決するための事業プラン作りに取り組み、企業や投資家に対しプレゼンテーションする講座を実施した。
- ・ 連携校である茗溪学園中学校の生徒を対象に、自分の興味・関心のある領域から社会課題を見つけ、解決方法を探索するワークを通じて、探究に必要なスキルを見に付ける講座を基礎編(BASICプログラム)と発展編(ADVANCEDプログラム)に分けて実施した。
- ・ アントレプレナーシップ教育プログラムを実際に体験し、その教育効果や意義を学び、学校への導入を考える研修プログラムを高校教員向けと小学校・義務教育学校教員向けに分けて実施した。

＜千葉大学実施プログラム＞

公立中高のモデル校と連携し、教員の授業実施を伴走または授業者として調整し、アントレプレナーシップ教育を実施。千葉県、千葉市と連携して新規教材を開発し一層の公立小中高等学校への定着を目指す。

- ・ 導入教育のための映像コンテンツ作成と実践を小中高校生1,825名に対して行った。具体的には小中高校生が会社の仕組みや起業の流れについて学べる動画コンテンツ教材とワークシートの開発を三つ行い、公立の小学校での授業実践を行なった。また、学校におけるキャリア教育の授業や自治体・民間企業のアントレプレナーシップ教育イベントにおいて、ワークショップ形式で開発した教材を実施した。
- ・ 高校等への定着として、高校生20名に対して、高校生が事業計画を考え、実際に起業の一步を踏み出すまでの取り組みを地元の企業などの協力を得て大人が伴走できるプログラムを開発し、課外活動として取り組みを実施した。
- ・ 高校教員向けの普及活動として、高校等での普及に向けて、アントレプレナーシップ教育の考え方や意義を説明する教員向けの講演会を実施した。また、実際に既存の教材を用いて千葉大学が講師役を務めてアントレプレナーシップ教育の進め方を実践的に見せる授業実践を実施した。

＜神奈川県立保健福祉大学実施プログラム＞

アントレ教育ツールとなるコンテンツ(漫画)の作成、キングスカイフロント地域の連携を活用した機会の提供、市立学校への提供及び協力校での課外授業実施も目指す。

- ・ 神奈川県教育委員会「総合的な探究の時間」研究指定校である県立藤沢西高校(藤沢市)において、本学教員により1年生319名を対象に、6月14日(金)にアントレプレナーシップを知る機会としてワークショップを実施。
- ・ 川崎市教育委員会「キャリア教育研究」推進校である市立南大師中学校にて、2学年 約130名を対象に10月31日(木)にアントレプレナーシップを体感できるワークショップを実施。実施に際しては、教員とともに学生もファシリテーターを務めた。
- ・ 本学川崎キャンパスにおいて、8月7日(水)に小学校高学年51名を対象に「起業家プチ体験をしよう！」をテーマとしたワークショップを開催。
- ・ ダイバーシティへの対応の点から、英語版(デジタル版)を作成、公表した。

＜芝浦工業大学実施プログラム＞

教育課程外として学生のアントレプレナーシップ醸成のため、2016年度より芝浦ビジネスモデルコンペティション(SBMC)やワークショップを毎年開催している。そのノウハウを活用した芝浦工大附属校や併設校、並びに連携協定校を対象としたプログラムを実施。

具体的には、SBMCのワークショップのノウハウを生かした中高大連携(垂直)、中高間連携(水平)による中高生向けのプログラム(SBMC Junior)を開発し、ビジネスモデル・キャンバスワークショップ、ビジネスアイデア発表・交流会、先進地域視察などを実施。

上記のプログラムを通じ、3,928名(EDGE-PRIME予算外での実施分(630名)を含めるとのべ4,558名)の小中

高校生へのアントレプレナーシッププログラムの提供、および181名の教職員に対する研修や普及啓発の機会を2023年度において実現した。

3. 高校生等へ持続的にアントレプレナーシップ教育プログラムを提供する体制の構築

本事業に参画するGTIE機関は、それぞれのノウハウとステークホルダーを活用しながら高校生等向けアントレプレナーシッププログラムの展開を図っており、1~2か月に1回程度の頻度で開催した本事業連絡会議やGTIE内の全機関での会議等で密な情報共有と議論を行い、GTIE全体として効果的・効率的な実施体制を構築した。

大学側からの一方的なプログラムの企画・紹介等ではなく、興味や課題意識を持つ高校教員等や教育関係者が自発的に問題意識を持ち、大学側との繋がりを希望する形がより良いと考えている。受け手となる高校等の学校側における主体性やアントレプレナーシップ教育を取り込んでいくことの意欲等を、プラットフォーム側から十分確認しながら、プログラムの持続可能性の保証を前提に、双方win-winとなるプログラムをより練り上げていく方向性が望ましいと考えている。また、起業家教育推進大使のように、高校等单位ではなかなか講演会等を実施できない招聘をGTIE大学主催でカバーするなど、中高大連携で取り組むことの意義は常に確認していきたい。

4. 本取組に関する広報・イベント等の実施

本事業を起点とするノウハウ共有の場やコミュニティ形成に資する広報活動として、ウェブサイトでの発信や、高校生等から見てより身近な年齢の起業家等による高校生向けメッセージ動画コンテンツの作成等を行った。こうした取り組みは日本経済新聞ほか様々なメディアでも多く取り上げられた。

関係者間のネットワーキングや対外的PRの機会として、本事業の予算を活用したGTIE全体のイベントとして次の2つを実施した。

- ・ 全体シンポジウムの開催(2023年8月5日)@早稲田大学
- ・ 全体成果報告会(2023年12月26日)@SHIBUYA QWS

GTIE全体イベントについて2024年度は芝浦工業大学が、2025年度は筑波大学が幹事校を務める形で継続する形を予定している。2023年度の成果と省察を踏まえ、ネットワーキングと成果報告の場として向上させていく予定である。

5. プログラムの定着に向けた取組

本事業終了後も高校生等に対する質の高いアントレプレナーシッププログラムが提供できる仕組みに資するもの(レガシー)について、全体成果報告会等のイベントのほか、アントレプレナーシップに関わる内容の理解促進・教員の研修や意欲喚起等を目的とした、オンデマンドビデオ教材(早稲田)、指導補助教材(早稲田)、若手起業によるメッセージ動画(早稲田)、オンライン型教育教材(千葉)、マンガ形式による教材(保福大)など様々な場面で活用できる、多様なコンテンツ作成を行った。

2023年度において、本事業の実施を通じ、協力機関である自治体の教育委員会(東京都教育委員会、川崎市教育委員会)やプログラム実施協力先機関はもとより、日本政策金融公庫といった公的組織や様々な民間プレイヤーなど外部機関との連携が進み、その中で意義の共有に加えて様々な課題や制約要因の抽出も行うことができた。スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアムにおいても本事業での取り組みは紹介されており、こうしたことから、「大学だけでなく、民間等のリソースを最大限に活用しながら、高校生等を対象に様々なアントレプレナーシップ教育プログラムを開発・試行し、高校生等にとって効果的なプログラムの検証及び特定を行うことで、令和6年度以降の高校生等向けの継続的なプログラム実施の足場を構築する」という本事業で目指された姿は、十分に達成されたと考える。

以上